

受賞者氏名	小宮山 裕
所属	理工学部 創生科学科
受賞年月日	2023年3月15日
国内・国外	国内
授与機関等名称	公益社団法人 日本天文学会
受賞名	欧文研究報告論文賞
受賞(研究)内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <i>"GOLDRUSH. II. Clustering of galaxies at <math>z \sim 4-6</math> revealed with the half half-million dropouts over the 100 deg<sup>2</sup> area corresponding to 1 Gpc Gpc<sup>3</sup>", Y. Harikane et al. Vol. 70(2018), No. SP1, article S11</i> (筆頭著者：東京大学 播金優一氏)</li> <li>● <i>"Subaru High High-<math>z</math> Exploration of Low Low-Luminosity Quasars (SHELLQs). II. Discovery of 32 quasars and luminous galaxies at <math>5.7 &lt; z \leq 6.8</math>", Y. Matsuoka et al. Vol. 70 (2018), No. SP2, article id. S35</i> (筆頭著者：愛媛大学 松岡良樹氏)</li> </ul> <p>の2件の論文に対して日本天文学会により欧文研究報告論文賞が授与されました(ともに共同受賞)。</p> <p>前者の論文は、すばる望遠鏡の広視野可視光カメラ Hyper Suprime-Cam を使った戦略枠プログラム探査の初期観測データから、遠方銀河の角度相関関数をこれまでにない統計精度で測定し、遠方銀河の星形成と物質降着の間の関係を観測的に初めて制限したもので、その学術的な意義と天文学界へ与えたインパクトが高く評価されました。</p> <p>後者の論文は、すばる Hyper Suprime-Cam を用いた広視野撮像サーベイのデータを使った赤方偏移6以上の最遠方クエーサー探査プロジェクト SHELLQs(Subaru High-<math>z</math> Exploration of Low-Luminosity Quasars)プロジェクトの成果をまとめた初の論文であり、クエーサー研究において国際的にも大きな注目を集めたことが高く評価されました。</p> <p>受賞者は、すばる望遠鏡の広視野可視光カメラ Hyper Suprime-Cam の設計検討段階からその研究開発に参加し、観測システムの設計検討や広視野を実現する多数の CCD を並べた焦点面を持つ CCD カメラの開発を主導し、上記のような研究が実現する素地を作り上げてきました。2013年の Hyper Suprime-Cam の初観測とその後の調整・性能評価を経たのち、上記のような様々な観測研究が行われようになり、Hyper Suprime-Cam は世界から注目されるすばる望遠鏡を代表する観測装置として活躍しています。</p>